

恵比寿映像祭地域発信プロジェクト

「YEBIZO MEETS」

～ 東京・恵比寿から発信、アートで発信しています ～

恵比寿映像祭地域発信プロジェクト「YEBIZO MEETS」は、昨年から開催された、東京・恵比寿という地域からアートを通じて発信するプログラムの総称です。

10 回目の恵比寿映像祭は、記念すべきアニバーサリーの年。より一層地域と繋がり、緩やかに「東京・恵比寿」からの発信していく——。そんな視点で今年の「YEBIZO MEETS」は、場所を東京都写真美術館 1 F スタジオへ移し、開催いたします。フェスティバル観覧の途中にぜひお立ち寄りください。



第 9 回恵比寿映像祭「マルチブルな未来」地域発信プロジェクトより [参考図版]

[主催] 東京都／東京都写真美術館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）／日本経済新聞社 [共催] サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館 [後援] オーストラリア大使館／オランダ王国大使館／カナダ大使館／タイ王国大使館／ミャンマー連邦共和国大使館／TBS／J-WAVE 81.3FM [協賛] ANA／ゲーテ・インスティトゥート 東京ドイツ文化センター／サッポロビール株式会社／東京都写真美術館支援会員 [協力] アンスティチュ・フランセ日本-ヴィラ九条山／ぴあ株式会社／ドゥービー・カンパニー株式会社／株式会社ロボット

| 写真美術館 1 F スタジオが恵比寿映像祭の会期中、映像祭 10 周年のフェスティバル・サロンになります

恵比寿映像祭メイン会場である東京都写真美術館の 1 F スタジオが、フェスティバル・サロンになります。会場めぐりの計画や、鑑賞後の休憩や待ち合わせに、寛いだ雰囲気的空間をご利用いただけます。またフェスティバル情報はもちろん、地域連携プログラムの情報についても発信するスポットとなります。そのほか、トークセッションやイベントも行われます。スタンプラリーのスタンプポイントにもなっていますので、ぜひお立ち寄りください。

会 場 東京都写真美術館 1 F スタジオ

日 時 平成 30 年 2 月 9 日（金）～2 月 25 日（日）〈13 日火曜・19 日月曜休〉

時 間 10:00～20:00（※最終日は 18:00 まで）

| 「YEBIZO MEETS」 I 特別セッション：東京から発信する映画・映像祭の「今」

恵比寿映像祭は、恵比寿地域のパートナーと連携しながら、国際フェスティバルとして、映像文化を発信して10年を迎えます。長きにわたり、東京から映画・映像文化の発信をおこなってきた3つの映画祭をお迎えして、東京から世界に発信する今日的意義とその継続性について、それぞれの映画祭の目線から語っていただきます。さまざまな実践のなかから見えてくる課題から、今後の映像・映画文化の可能性を語り合う貴重な機会となります。ぜひご期待ください。

市山尚三（東京フィルメックス／プログラム・ディレクター）×荒木啓子（PFF/ぴあフィルムフェスティバル／ディレクター）×東野正剛（ショートショート フィルムフェスティバル & アジア／フェスティバル・ディレクター）

モデレーター：田坂博子（第10回恵比寿映像祭ディレクター）

会場 東京都写真美術館 1F スタジオ

日時 平成30年2月14日（水）18時00分～20時00分

定員 60席（別途、エリア内での立見可）

入場 無料



市山尚三 (ICHIYAMA Shozo)

東京フィルメックス プログラム・ディレクター [東京]

1963年、山口県に生まれる。東京大学経済学部を卒業後、1987年に松竹株式会社に入社。竹中直人監督作品「無能の人」(1991)、ホウ・シャオシェン監督作品「憂鬱な楽園」(1996)等をプロデュース。並行して1992年より1999年まで東京国際映画祭「アジア秀作映画週間」(後の「シネマ・プリズム」)の作品選定を担当する。1998年、オフィス北野に移籍し、サミラ・マフマルバフ監督、ジャ・ジャンクー監督などアジアの若手監督の作品のプロデュースを開始。一方、2000年12月に国際映画祭「東京フィルメックス」を立ち上げ、現在に至るまでのプログラム・ディレクターを務めている。



荒木啓子 (ARAKI Keiko)

PFF/ぴあフィルムフェスティバル ディレクター [東京]

1990年PFFに参加。1992年PFF初の総合ディレクターに就任。以来、PFFアワード入選作品やPFFスカラシップ作品を中心に、日本の「自主映画」文化を国内外に紹介する活動を続けている。近年では、ベルリン国際映画祭+香港国際映画祭と共に企画制作した、日本の8mmフィルム作品をデジタル化し世界巡回する「8mm マッドネス Hachimiri Madness」プログラムが大きな話題を呼んだ。



東野正剛 (TONO Seigo)

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア フェスティバル・ディレクター [東京]

1968年生まれ。カリフォルニア州ペッパーダイン大でジャーナリズムを専攻。卒業後、渡仏。3年間をクレルモンフェラン市に滞在する。以後、ロサンゼルスでショートフィルムの制作、ハリウッド映画の製作に携わる。2000年からは、毎年6月に原宿表参道で開催される「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」の事務局長として参加。現在は、同映画祭のフェスティバル・ディレクター。

| 「YEBIZO MEETS」II 地域発信トーク：NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ

2001年から代官山で活動を始めたNPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ。通称AIT（エイト）は、アートや教育の場、また恵比寿映像祭・地域連携プログラムでもお馴染みです。彼らは、現代アートの複雑さや多様さ、驚きや楽しみを伝え、それらの背景にある文化について話し合う場を創り出しています。今回は、AITが毎年開講する現代アートの学校MADのプログラム・ディレクターを迎え、第10回恵比寿映像祭のテーマを読み解くトークを開催していただきます。

視覚の果て：アーティストが見えない世界をどう描いてきたか

写真や映像技術が生まれる遙か昔。私たちの祖先はその想像力を深い洞窟内に描いていました。同じように今日のアーティストたちも人間の目では見えないものを捉え、作品を生み出しています。宗教的、精神的、超越的なものとして語られていた感情や体験を、アーティストたちはどのようにして表現してきたのでしょうか？「視覚の果て：アーティストが見えない世界をどう描いてきたか」では、第10回恵比寿映像祭のテーマである“インヴィジブル（見えないもの）”を読み解くとともに、ユニークな視点でアートの歴史を見ていきます。

ロジャー・マクドナルド（MADプログラム・ディレクター／AIT副ディレクター [東京・代官山]）

会場 東京都写真美術館1Fスタジオ
日程 平成30年2月15日（木）18時00分～19時30分
定員 60席（別途、エリア内での立見可）
入場 無料



ロジャー・マクドナルド（Roger McDonald）

MAD（Making Art Different）プログラム・ディレクター／AIT副ディレクター [東京・代官山]

東京生まれ。イギリスで教育を受ける。学士では、国際政治学、修士では、神秘宗教学（禅やサイケデリック文化研究）、博士号では、『アウトサイダー・アート』（1972年）の執筆者ロジャー・カーディナルに師事し美術史を学ぶ。1998年より、インディペンデント・キュレーターとして活動。「横浜トリエンナーレ2001」アシスタント・キュレーター、第一回「シンガポール・ビエンナーレ2006」キュレーターを務める。2003年より国内外の美術大学にて非常勤講師として教鞭をとる。長野県佐久市に移住後、2013年に実験的なハウスミュージアム「フエンバーガーハウス」をオープン、館長を務める。AIT設立メンバーの一人。

| 「YEBIZO MEETS」III リンクセッション：

東京から発信するグラスルーツアートプロジェクトを検証

— オルタナティヴ・スペース statements／アサクサの事例から

昨今の表現活動の発表機会は、オルタナティヴ・スペースや、アート・コレクティブの自主運営による場、あるいは特定の空間に依拠しないプロジェクト・ベースの活動など、多様な展開と広がりを見せています。第9回恵比寿映像祭地域連携プログラムに参加した「statements」は、期間限定の活動ながらポール・シャリッツやジェイ・チュン&キュウ・タケキ・マエダらのプロジェクトといった企画を次々と実現しました。キュレーターの兼平彦太郎氏が、自身が関わった実践例とともにグラスルーツ型の次世代アートシーンを俯瞰し、検証します。またそのケーススタディの一つとして、ボリス・グロイス招聘プロジェクトの実行委員やアントン・ヴィドクル氏の映画撮影プロジェクトなどを意欲的に実践している「アサクサ」より大坂絃一郎氏の活動について、ともに紐解きます。

兼平彦太郎（キュレーター）× 大坂絃一郎（アサクサ代表）

会場 東京都写真美術館1Fスタジオ
日時 平成30年2月21日（水）18時30分～20時00分
定員 60席（別途、エリア内での立見可）
入場 無料

兼平彦太郎 (KANEHIRA Hikotaro)
キュレーター [東京・恵比寿]

近年の主な企画に「ジェイ・チュン&キュウ・タケキ・マエダ」(statements、東京 | 2017)、「トレッドソン・ヴィラ・マウンテン・スクール 2016」(statements、東京 | 2016 | 落合多武&アン・イーストマン企画発案)、「アーティスト・イン・レジデンス 須崎：現代地方譚 3 & 4」(高知県須崎市 | 2015&2016)、「荒木経惟 左眼ノ恋」(三菱アルティアム、福岡 | 2014 *柴田としとの共同企画) など。そのほか郵便物やウェブサイトを展覧会と並列にプレゼンテーションする『ミヤギフトシ American Boyfriend』プロジェクト (2013 - 継続中) や、アーティストブック『THE ABC BOOK by Shimon Minamikawa』(2010) の発行など、アーティストの展覧会以外のフレーム、プラットフォームによる企画も手がける。



大坂紘一郎 (OSAKA Koichiro)
アサクサ代表 [東京]

早稲田大学中退。ロンドン芸術大学セントラルセントマーチンズ、キュレーション学科卒業。ロンドンの大和日英基金にて、政治・経済・文化における二国間交流の現場に携わった後、2013年に帰国しスカイザバスハウスに勤務する。2015年、30平方メートルの一般住宅を改築した現代アートスペース「アサクサ」を設立。美術研究とマーケットの動向を媒介した共同キュレーションを核とし、これまでにヨシュア・オコン、オノ・ヨーコ、トマス・ヒルシュホルンらの展覧会を開催する。倉敷芸術科学大学および岡山大学 非常勤講師。

| 「YEBIZO MEETS」IV 地域連携発信 特別イベント

視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ in 恵比寿映像祭

第10回恵比寿映像祭では、メイン会場の東京都写真美術館のほか、隣接する恵比寿ガーデンプレイス センター広場や、日仏会館で展示作品をご覧いただけます。作品解説を行うガイドツアーとは別に、メイン会場の作品を、見えない人も見える人も一緒に鑑賞します。作品の見え方、感じ方を言葉にしながらか、「見えていること」「見えていないこと」、あるいは情報の受け取り方の違いについてなどを参加者同士で話し合います。



【視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップとは】

障害の有無にかかわらず、多様な見方の人が集まり、言葉を交わしながら一緒に美術鑑賞をするワークショップです。さまざまな視点を持ち寄ることで、一人では出会えない新しい美術の楽しみを発見できるはず。誰もが気軽に美術館を訪れて、感じていることや印象、考えを自由に語り合う、そんな美術鑑賞のスタイルを目指しています。

- 【会場】 東京都写真美術館全フロアの数作品 [120分/日本語]
- 【日時】 平成30年2月18日(日) 15:00~17:00 [2月12日(月) 正午締切]
平成30年2月24日(土) 11:30~13:30 [2月18日(日) 正午締切]
- 【定員】 各回14名
- 【参加方法】 メールにて事前申込制 (申込多数の場合は抽選)
- 【参加費】 無料
- 【お申し込み方法】 以下の項目を記入の上、メールでお申し込み下さい。

お申し込み先： yebizo_ws@topmuseum.jp

- 1、参加希望日時
- 2、お名前（よみがな）
- 3、メールアドレス
- 4、障害の有無と種別
- 5、当日動向する介助者（ガイドヘルパー）の有無
- 6、盲導犬の有無
- 7、恵比寿駅までのお迎えが必要な方はその旨と連絡先

※ワークショップ申込情報に関するプライバシーポリシーは、公式ウェブサイトをご覧ください。

制作：第10回恵比寿映像祭、特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]、視覚障害者
とつくる美術鑑賞ワークショップ

YEBIZO MEETS とは

恵比寿映像祭地域発信プロジェクト「YEBIZO MEETS」は、昨年から開催する東京・恵比寿という地域から発信するプログラムの総称です。昨年はその先駆けとして、恵比寿ガーデンプレイスのグラススクエア「COMMON EBISU」で、伊東建築塾から伊東豊雄氏、代官山アートフロントギャラリーから北川フラム氏のお二方によるスペシャルセッションや、畠山直哉氏と映像祭出品作家マヌ・ルクシュ氏によるオーストリア大使館共催トーク、「ダンス保育園!!」などを開催いたしました。

このリリースについてのお問合せ ※ 報道・媒体関係者様 のお問合せに限らせていただきます。

○プレスリリースに関するお問合せ |

恵比寿映像祭プレス担当：平（たいら）、大西（おおにし）

電話：090-1149-1111（平）090-9621-5235（大西） / ファクス：03-3468-8367 /

E-mail: info@tmpress.jp

○広報用写真の提供 |

※本リリース内で使用している写真を広報用画像としてご用意しております。

①ご希望画像の作品名 ②貴媒体名 ③掲載予定時期

を表記のうえ、上記のプレス担当者までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

○この事業に関するお問い合わせ |

恵比寿映像祭担当（東京都写真美術館）：柳生（やぎゅう）・印牧（いんまき）

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電話：03-3280-0076 / ファクス：03-3280-0033 / e-mail：yebizo_press@topmuseum.jp